

野の仏ギャラリー⑱

十一面観音坐像

南多久町妙覚寺

光背、坐像、蓮華台が一体化して造られています。頭上の左右に計十面の菩薩、正面に一面の化仏が彫られ、合計十一面としています。左手に二茎の蓮華を持ち、右手は与願印の形です。天衣が肩部から腕を通り腰部まで垂れています。十一面観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の一つです。

銘「十一面観音」昭和十七年六月一日 施主武富傳三



○頭上の十面は、菩薩の十段階の修行場面を表しています。

○頭上の化仏は、一般に阿弥陀如来を象徴していると考えます。

○与願印は衆生の願いをかなえますという印です。

○天衣はシヨール状の衣です。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

今月の論語

命と與にし

仁と與にす

天から与えられたつとめを尽くす(使命を果たす)だけでなく、人の道にも背かないようにする。

今月の楠宅放送は、東原岸倉中央校9年の藤田仁美さんです

教育長コラム

ちよっとい話



その向こうにあるもの

学校では、保護者に確認の署名や捺印をお願いすることが度々ある。一筆記入する欄があることも。教科書を読んだとか、成績表を確認した、という類だ。お稽古や塾や地域でも似たようなことはあるかもしれない。

時に、明らかに親ではない署名や一筆があつて「？」と思わされた。親になりきつて文章を書いているときには苦笑する。所詮、子どもの作業でお見通し。

さて、この場合、叱りつける大人は三流。よく事情を聞いて二度としないように諭すのは二流。では、一流って。その署名の向こう側にある、子の状況を理解してあげることだろう。単なる応急措置だったのか、家族喧嘩で調子が悪いのか、他のものと苦しい状況だったのか。気が付いてあげられる大人が周囲にいてくれることが、子の成長に欠かせない。左手で書いたり大人びて書いたり、その様子を想像すると何ともいじらしい。

教育長 田原優子

市民文芸

◆秋びより散歩楽しむ足取りに  
ゆるりゆるりとスキ種ゆれる  
梶原恵美子

◆梶峰の城守らむと戦ひし  
父祖眠る地に我ら生きある  
浦野 嘉恵

◆愛だけが現実であるそのことに  
目覚めるための人生だった  
野崎 隆幸

◆稲の穂に秋の陽差しは降りそそぎ  
さやかな風が穂波を撫でり  
川浪 信子

◆落葉踏みて一人サクサク去りゆくか  
長身の彼が妻を遺して  
尾形 節子

◆身ほとりにふはりと未たる秋の蝶  
富樫 明美

◆抱かれるる水子の像に赤とんぼ  
本村 則子

◆霧襖谷すつぱりと囲みけり  
おおやはな

◆野に出れば音高らかに落し水  
武富 律子

◆一灯を残し夜長の文を書く  
中嶋 清子

◆弱かった三男坊が母背負う  
大谷 和

◆過ぎた日の苦楽句として  
生きてくる  
西山 残月

◆帰って来い帰ってくるな  
親ごころ  
田代まつこ

◆コロナ禍の終見えず年暮れる  
中尾 和弘

◆開運のダルマ片目のまま  
師走  
松下 修

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会互選》